

# 学校だより

人権教育「生命の尊重」の授業を終えて

## よりよく生きるために いのちの話

『入間野中学校3年生の皆さん、本当に生まれてきてくれてありがとう。そして今日まで頑張って生きてくれてありがとう。みんなの未来を今日ここにいる全員で守りたいと思います。みんなの未来を心から応援します。本当に生まれてきてくれてありがとう』この言葉は先日、3年生で実施した人権教育「生命の尊重」の講師 久保木裕子さんのメッセージです。

私は、5年前、日高市の学校で初めて久保木さんの誕生学（いのちの話）を聞きました。赤ちゃんとの交流や妊婦体験、そして久保木さんの人柄や熱意、子供たちの思いに感激し、本校の生徒にも体験してもらいたいと思い、実施しています。お陰様で少しずつ成果が認められ、次年度から市内の学校にこの取り組みが広がるということを知り、とても嬉しく思っています。昨今、児童虐待、自ら命を絶つ子供、SNSをめぐる誹謗中傷など青少年をめぐる痛ましい事件が後を絶ちません。また一見、恵まれた環境の中で過ごしている生徒でさえ、平気で相手の心を傷つける言動を発する場面が日常の中で見られます。さらに子供たちの自己肯定感の低さは、毎年のように報告されており、そのことが学力の伸びに少なからず影響していることは各調査の結果によって明らかです。本校では、様々な体験が学力の礎を築くという考えで、行事や体験活動、そして自治活動に力を入れてきました。その一つが、この「生命の尊重」の授業です。普段は口数が少ない生徒、表情が乏しい生徒、落ち着きがない生徒も、みんな赤ちゃんを前にしては笑顔で素直な気持ちで接している。そんな生徒を見て心が洗われるひと時でした。また、いのちの話の講演では、真剣に話を聞くまなざしや涙を流しながら聞き入る生徒を見て、ほっとした思いを抱きました。

授業後、ある生徒が「今 生きていることが奇跡だ。その奇跡の中で出会えた友達、そして家族、みんなにありがとうと伝えたい。お母さんの幸せそうな笑顔、頑張っって泣く赤ちゃんの姿、一生懸命に育てる親、どれもみんなきれいで、私は、この世の中に生まれることが出来て幸せ」と感想に記していました。



私たちは、日々、大人も子供も悩み戸惑い、喜びも悲しみも感じながら人との関わり合いの中で生活し成長しています。今回の「生命の尊重」を通じて、世界中の子供たち一人一人が、この世に生を受けた意味、生きている理由、命の大切さについて真摯に向き合い考えることが出来るならば、未来は、もっと明るくなると確信します。ご協力いただいた、久保木様をはじめ、川越子育てネットワークの皆様、そして生徒たちの心を豊かにしてくれたお母さんや赤ちゃんたちに感謝を申し上げます。